

目先の成果への見方

われわれは自由主義者を中傷している、とだれもが、われわれのことをそう言っている。われわれが、まだ『ザリヤー』や旧『イスクラ』紙上で『オスヴォボジデーニエ』の最初の数号を「邪険」にあつかったとき、われわれは中傷者と呼ばれた。その中傷とは、ブルジョア・イデオロギーのマルクス主義的分析——現実によって完全に確認された——であることがわかった。だから、いまわれわれが「人民自由」党を中傷していると非難されても、われわれは驚きもしないし、かなしみもしないだろう。

それぞれの政治的時期は、唯一の最後まで革命的な階級の代表者としての社会民主党のまえに、日程にのぼっている特殊な、特別の任務を提起するが、この任務はブルジョア民主主義派の日和見主義的諸層によってつねにぼかさされ、なんらかの形でうしろにおしきげられる。革命的社会民主主義派だけが遂行することのできる、またプロレタリアートの恒常的な、根本的な、本質的利益を裏切るまいとするならば遂行する義務のある、当面の特別な政治的任務——このような任務は立憲的幻想との闘争である。小ブルジョア日和見主義者はつねに目さきの成果に、最新の趣好のはなばなしさに、「進歩」の一瞬間に満足する。われわれはもっと遠く、ふかくを注目し、この進歩のなかに、退歩の基礎となり、保障となるいろいろな面、達成されたものの一面性、せまさ、不確かさを表現し、またことなつた形で、ことなつた条件のもとで、さらに闘争する必要を呼びおこすいろいろな面を、いますぐ、ただちにしめさなければならない。

1906年3月28日

第10巻 P262「カデットの勝利と労働者党の任務」

ポイント

革命的社会民主主義派は、ブルジョア・イデオロギーのマルクス主義的分析を行わなければならない。

小ブルジョア日和見主義者はつねに目さきの成果に、最新の趣好のはなばなしさに、「進歩」の一瞬間に満足する。われわれはもっと遠く、ふかくを注目し、この進歩のなかに、退歩の基礎となり、保障となるいろいろな面、達成されたものの一面性、せまさ、不確かさを表現し、またことなつた形で、ことなつた条件のもとで、さらに闘争する必要を呼びおこすいろいろな面を、いますぐ、ただちにしめさなければならない。